

帝都ノ復興ハハニシテハ都市大ニシテハ帝國ノナルネサンスシ
ニ関スル重大事タリ九月四日死灰尚未ダ冷ナラザルニ方リ復興ノ
議ヲ起シ其所説簡單ナレドモ我敬愛スル内閣諸公ハ皆聞一知十ノ明
アリ各自自ラ文字以外幾多ノ計會ト共ニ十全ナル大経綸湧出シ来ル
ベキ集注ヲ加ヘテ了解セラレ且相信ノ間御承知ノ如キ経過ニテ是迄
集行シ来リタルハ一ニ首相閣下老練卓見ノ指導ニヨルユトヲ謝セザ
ルベカラズ昨日ノ審議會ハ豫見ノ事ナガラ二回ノ詔書モ發セラレ居
ル重大経綸問題ニ對シ固陋ト輕率ト申ス外無之程ノ原案反對説アリ
之^{少々}レ東京市民ハ曩ニ造物ヨリ全身ニ欣衝ヲ生スベキ矢ヲ据ラレ尚ホ

水健康回復ノ氣運ニ向ヒ雖不安ノ中ニ於テ更ニ姑息因循將來再震
火災ヲ免レ難キ境遇ヲ再造スル論旨ヲ聞クニ至リ是已ニ詔書遵奉ノ
上ニ於テ遺憾ナルノミナラズ市民ニ罪惡ヲ累スルノ基ヲナスベ
ギ虞アルコトヲ自覺セルコトナルヘシ是曩ニ参与會議及評議會ニ
徴シテ東京市民ノ希望ニ反スルコト明カナリ愚自ラ以テ首相閣
下此点ニ関シ夙ニ明察セラル、所アラン日夜微力ヲ盡シテ大藏大臣
ト折衝シ巨ニ隔意ナキ協商ヲスルコトノ幸ヲ得テ今日ニ到ル是豈現
在ノ狀事タルノミナラズ幸ウシテ上 詔書ノ聖旨ヲ發揚シ下市民否
國民ノ健全ナル福利ヲ開クノ實ヲ奉ゲ帝國ノ心ネサシムヲ達成スル
ヲ得テ山水内閣成立ノ意義ヲ見認ムルコトヲ得ン乎今回ノ評議會一
部ノ意見ト彼ノ未熟政黨自ラ覺ラス真ニ國家ノ利害關係ヲ解セザル

モノニ對シテ極力奮闘シテ後已ム底ノ決心ナカルベカラズ

閣下内閣組織ノ初心ニ於テ已ニ決セラル、アラシ方ヨリ豫ヒ

テ議會ニ對シ攻撃ヲ与フルコトハ全然避ケサルベカラサルモ

攝政宮殿下親政ノ初歩ニ方リ且國步艱難ノ時ニ際シ黨派ナクシテ單

独无軀ヲ捧ケテ大命ニ答ヘ奉ラントセラル、大決心ハ其レ何ソ雄ナ

ルヤ思モ亦感激涕零ノ實ニ備ル是夫ノ榮ヲ貪リ一日ノ安ヲ偷ムモノ

ト固ヨリ品ヲ異ニス當初ヨリ自ラ大犠牲ヲ辞セズ生命ヲ賭シテ奮進

スルノ覺悟アリ仮令ニ現在ニ非難攻撃ノ衝ニ立ツモ耿々ノ微衷必ズ

ヤ天閣ニ達スルノ日アリ政敵降伏シ来ルノ時アラシコト信ジテ疑

ハサルナリ唯恐ル閣下ノ為ニ時ニ不便ナルモノアラシコトヲ即反對

派ノ所謂内閣暗礁タル後藤ノ為ノ不利ヲ来スコトアラシコト思ガ玉張

所信ヲ以テ勇進邁往スルコト却テ閣下ノ為メニ大局上不便ナルモノ
アタバ明カニ思ヒ告ゲラレシコトヲ望ム處ナリ思ハ建退ノ如キ國家
ノ為内閣ノ為將又閣下ノ為ニ快ク決スヘキナリ

閣下モ亦此國家ノ危機ニ際シ老軀ヲ以テ立チ玉碎ハ可ナリ瓦全
ハ不可ナリ所謂中五中間内閣ヲ組織シ其生命ヲ支持スルニ止マラバ
伯ノ伯タル所ノ真面目ニ非サルベシ山本内閣三日ニシテ斃ル、モ忠
誠ノ道ヲ開キ以テ國民ニ向フ處ヲ覺ラシムルニ足ルモノアラハ則チ
可ナリ夫ノ党中党ヲ互テ各派互ニ争ヒ不統一ノ内閣瓦解タ免レズ已
ムナク辭表ヲ呈シ竊カニ大命ノ再下ヲ希ヒ現存内閣短命ヲ呪フが如
キハ婦女子モ愧ル處ト大是敢テ閣下ニ告ル所以ノ必要アルニ非サル
ベシ要スルニ

一、 國步艱難

二、 詔書二回下ル

三、 事皆近ク震災ノ善後策ニ関ス

四、 轉禍爲福ノ機目前ニ存ス

五、 帝都復興ハ帝國ノ復興ナリ

六、 姑息因循ハ聖旨ニ反ス

七、 市民現在ノ不安ヲ去ルハ可

八、 然レトモ姑息ニ流シテ却テ市民ヲシテ永久ノ不安ニ

陷ラレムルハ不可

九、 審議會一二ノ所説ハ畏クモ 詔書ニ反シ永ク市民各

自ニ市民不幸ヲ与ヘ中外ノ期望ニ反シ國民ノ面目ヲ

汚スノ虞アリ

十、彼等ノ立論ハ山本内閣存立ノ意義ヲ害スルモノニシ

テ如何ニ善意ヲ以テ解釋スルモ内閣破壊ヲ目的トス

ルモノニ非サルカ

市民又ハ國民ニ姑息ノ仁ヲ賣リテ永久ニ不利不幸ヲ

貽スモノト云フベキニ非ザルカ

地方民ノ公債事業ヲ制限シ地方發達ヲ妨クルモノト

ノ名義ニ籍リテ地方民ヲ毒シ中核ノ不健全即病体ヲ

造リ却テ永久ニ國民ノ政治文化經濟上ニ不健全ナル

累ヲ及ボスコトヲ知ラザルニ坐スルモノト云ハザル

ヲ得ガ依テ尤ノ決着点ニ達ス

固陋輕率ノ意見（江水伊東大石高橋ノ意見）ニ對

シテ之ヲ排シ

詔書ノ旨ヲ体シ一向ニ進ムベキカ

然ルニハ原案ト彼等ノ意見ト参与會及評議會ノ再
議ニ付シ然ル後附議ニ於テ採否ヲ決セラルベシ

大正十二年十一月二十五日

帝都ノ復興小ニシテハ都市大ニシテハ帝國ノ「ルネサンス」ニ
關スル重大事タリ九月四日死灰尚ホ未ダ冷ナラザルニ方リ復興ノ議
ヲ起シ其所説簡單ナレドモ我敬愛スル内閣諸公ハ皆聞一知十ノ明ア
リ各自自ラ文字以外幾多ノ計畫ト共ニ十全ナル大経綸湧出シ来ルベ
キ集経ヲ加ヘテ了解セラレ且相信ノ問御承知ノ如キ経過ニテ是迄進
行シ来リタルハ一ニ首相閣下先練卓見ノ指導ニヨルコトヲ謝セサル
ベカラズ昨日ノ審議會ハ豫見ノ事ナガラ二回ノ「詔書」ヲ發セラレ居
ル重大経綸問題ニ對シ固陋ト輕率ト申ス外無之程ノ原案反對説アリ
之レ少クモ東京市民ハ曩ニ造物ヨリ全身ニ激衝ヲ生スベキ矢ヲ据ラ

【2】

レ尚ホ健康回復ノ氣運ニ向ヒ漸ホ不安ノ中ニ於テ更ニ姑息因循將來
 再震火災ヲ免レ難キ境遇ヲ再造スル論旨ヲ聞クニ至リ是已ニ 詔書
 遵奉ノ上ニ於テ遺憾ナルノミナラス市民ニ罪惡ヲ累ネシムル基ヲ
 ナスベキ虞アルコトヲ自覺セルコトナルヘレ是曩ニ參與會議及評議
 會議ニ微シテ東京市民ノ希望ニ反スルコト明カナリ愚自テ以為ラク
 首相閣下此点ニ関シ夙ニ明察セラル、所アラシ日夜微力ヲ尽クレ大
 藏大臣ト折衝シ互ニ隔意ナキ協商ヲスルコトノ幸ヲ得テ今日ニ到ル
 是豈現在ノ快事タルノミナラス幸ウシテ上 詔書ノ聖旨ヲ發揚シ下
 市民否國民ノ健全ナル福利ヲ開クノ實ヲ奉ゲ帝國ノフルホサシスレ
 ヲ達成スルヲ得テ山本内閣成立ノ意義ヲ見認ムルコトヲ得ン乎今回
 ノ審議會一部ノ意見ト彼ノ未熟政黨自ラ覺ラス真ニ國家ノ利害關係

ヲ解セサルモノニ對シテ極力奮闘競レテ後已ム底ノ決心ナサルベカ
バ

閣下内閣組織ノ初心ニ於テ已ニ決セラル、アラシ此方ヨリ強ヒ

テ議會ニ對シ打擊ヲ与フルコトハ全然避ケサルベカラザルヲ

攝政宮殿下親政ノ初步ニ方リ且國步艱難ノ秋ニ際シ党派ナクシテ單

獨老軀ヲ捧ケテ大命ニ答ヘ奉ラントセラル、大決心ハ其レ何ソ雄ナ

ルヤ愚モ亦感激閣僚ノ員ニ備ル是夫ノ榮ヲ貪リ一日ノ安ヲ偷ムモノ

ト固ヨリ品ヲ異ニス當初ヨリ自ラ大犧牲ヲ辞セズ生命ヲ賭シテ奮進

スルノ覺悟アリ假令ヒ現在ニ非難攻撃ノ衝ニ立ツモ耿々ノ微衷必ズ

ヤ天閣ニ達スルノ日アリ政敵降伏シ来ルノ時アラシコト信ジテ疑

ハサルナリ唯恐ル閣下ノ為メニ時ニ不便ナルモノアラシコトヲ即反

對派ノ所謂内閣暗礁タル後藤ノ為ノ不利ヲ来スエトアラシテ愚ガ主
張所信ヲ以テ勇進邁往スルコト却テ閣下ノ為ノニ大局上不便ナルモ
ノアラバ明カニ愚ニ告ゲラレンコトヲ望ム處ナリ愚ガ進退ノ如キ國
家ノ為内閣ノ為將又閣下ノ為ニ快ク決スヘキナリ

閣下モ亦此國家ノ危機ニ際シ老軀ヲ以テ立テ玉碎ハ可ナリ尾全
ハ不可ナリ所謂中立中閣内閣ヲ組織シ其生命ヲ支持スルニ止マラバ
伯ノ伯タル所ノ真面目ニ非ラルベシ山本内閣三日ニシテ斃ル、モ忠
誠ノ道ヲ開キ以テ國民ニ向フ處ヲ覺ラシムルニ足ルモノアラバ則可
ナリ夫ノ党中党ヲ立テ各派互ニ争ヒ不統一ノ内閣を解ラ免レズ巴ム
ナク辭表ヲ呈シ竊カニ大命ノ再下ヲ希ヒ現存内閣短命ヲ呪フが如キ
ハ婦女子モ愧ル處トス是敢テ閣下ニ告ル所以ノ必要アルニ非サルベ

シ要スルニ

一、國步艱難

二、詔書二回下ル

三、事皆近ク震災ノ善後策ニ関ス

四、轉禍為福ノ機目前ニ存ス

五、帝都復興ハ帝國ノ復興ナリ

六、姑息因循ハ聖旨ニ反ス

七、市民現在ノ不安ヲ去ルハ可

八、然レトモ姑息ニ疏レテ却テ市民ヲレテ永久ノ不安ニ

陷ラレムルハ不可

九、審議會一二ノ所説ハ畏クモ

詔書ニ反シ永ク市民各

自ニ不幸ヲ與ヘ中外ノ期望ニ反シ國民ノ面目ヲ汚ス
ノ虞アリ

十、彼等ノ互論ハ山本内閣存立ノ意義ヲ害スルモノニシ

テ如何ニ善意ヲ以テ解釋スルモ内閣破壊ヲ目的トス
ルモノニ非サルカ

市民又ハ國民ニ姑息ノ仁ヲ賣リテ永久ニ不利不率ヲ
貽スモノト云フベキニ非ザルカ

地方民ノ公債事業ヲ制限シ地方發達ヲ妨クルモノト
ノ名義ニ籍リテ地方民ヲ毒シ中核ノ不健全即病体ヲ
造リ却テ永久ニ國民ノ政治文化經濟上ニ不健全ナル
累ヲ及ホスコトヲ知ラザルニ坐スルモノト云ハザル

ヲ得ス依テ尤ノ決着点ニ達ス

固陋輕率ノ意見（江本、伊東、大石、高橋ノ意見）ニ對

シテ之ヲ排シ

詔書ノ旨ヲ体シ一向ニ進ムベキカ

然ルニハ原案ト彼等ノ意見ト參與會及評議會ノ再

議ニ付シ然後閣議ニ於テ採否ヲ決セラルヘシ

大正十二年十一月二十五日